

音楽教育学 特殊講義	一・二	二	音楽教育のあり方について、目的論、方法論、技術論を通じ、歴史、哲学、心理学、社会学等との関連において学問的に考察する。	全学生を対象とする選択科目である。
ソルフェージュ 特殊講義	一・二	二	音楽の総合的理解と実習を行うソルフェージュ教育のあり方を理論体系の研究、批判を通じ、また各国における音楽の特殊性及びそれにより生ずるソルフェージュ教育の相違を比較研究しつつ考察する。	同上

〔横組〕(『昭和六十二年度 東京芸術大学 大学院音楽研究科(博士後期課程)履修便覧』一九〜二六頁)

三 入学試験

(一) 修士課程

昭和三十八年に大学院音楽研究科が設置され、初年度は昭和三十八年五月二十二日から二十三日に入学試験、二十七日に合格発表が行われている。

ここでは、『東京芸術大学大学院音楽研究科(修士課程)学生募集要項』から昭和三十八年度と六十二年度の全文、およびその他の年度における変更箇所を順に掲載する。

昭和三十八年度

昭和三十八年度

昭和三十八年度
東京芸術大学大学院音楽研究科(修士課程)
学生募集要項

東京芸術大学音楽学部
台東区上野公園五番の一

入学志願者への注意事項

(1) 昭和三十八年度は大学院設置の初年度につき、学生の募集時期が多少ずれているため、三十九年度以降の募集については三十八年度と異なることがある。

(2) 試験実施日程については、応募者数によって多少変更されることがあるので、試験開始の前日五月二十日(月)午後学部内に掲示の試験日割を志願者自身が必ず見にくること。
なお、試験に関する注意事項等についても同時に掲示するからよく注意して見ること。

(3) 上記の試験に関するこの電話による問合せには一切応じない。

目次

- I 募集予定人員
- II 選抜方法
- III 応募資格
- IV 出願手続
- V 試験科目

- VI 試験科目の概要ならびに試験科目
- VII 試験実施日程・合格発表
- VIII 入学に関する事項
- IX 入学金・授業料に関する事項

I 募集予定人員

作 曲 声 楽 器 楽 指 揮 作 曲 声 楽	募集予定人員 各専攻とも若干名 (注) 応募者は志望する専攻 (声楽の場合声種) 一つに限り出願するこ とができる。
--	--

II 選抜方法

入学者の選考は専攻実技・学力検査・身体検査書・面接および出身大学の成績・調査書によって行ない、その選考に合格した者に入学を許可する。

III 応募資格

- 本大学院音楽研究科に応募できる者は次のとおりとする。
- 1. 学校教育法第五十二条に定める大学の卒業生。
- 2. 大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者。

IV 出願手続

① 出願期日

昭和三十八年五月六日(月)から五月十日(金)まで毎日午前十時から午後三時まで教務係窓口にて受付ける。(但し、正午から午後一時までは願書の受け付けを行わない)

② 提出書類

応募者は、下記書類に検定料一、五〇〇円を添えて、五月十日(金)十五時までに音楽(学)部教務係に提出すること。但し、郵送による出願の場合は必ず書留・速達として五月十日までの消印のあるものを有効とする。なお一度納入した検定料は、理由の如何を問わずこれを返付しない。

一、入学願書・履歴書

(イ) 旧大学令による大学を卒業した者。

(ロ) 旧高等師範学校規定による高等師範学校専攻科を卒業した者。

(ハ) 旧中学校令による中学校もしくは高等女学校を卒業した者または旧専門学校入学者検定規程によりこれと同等以上の学力を有する者と検定された者を入学資格とする旧専門学校令による修業年限五年以上(予科の修業年限を含む)の専門学校を卒業した者。

(ニ) 防衛庁設置法(昭和二十九年法律第一六四号)による防衛大学校を卒業した者。

3. 外国において、学校教育における十六年の課程を終了した者。

本学所定の用紙に記入すること。

(注意) 願書に記入する氏名は、必ず戸籍と同一文字でなければならぬ。その他の提出書類においては同様である。

二、出身大学の成績・調査書

A 出身大学長が作成提出する。(成績は大学在学中の全年成績と単位を記入のもの)

B 調査書……出身大学長が作成の人物証明書。

三、推せん書

出身大学の推せん書(大学在学中の指導教官又は学長の推せん書)

四、身体検査書

本学所定のもの。

五、写真

明らかに志願者本人であることが認められるもの、脱帽、上半身、正面向で、昭和三十七年十月以降に撮影したもの。

六、応募認可書

現に教職、その他の公職にある者、および会社等に在職中で服務義務のある者は所属長の応募認可書を、また現に大学院、その他の学校に在学中の者は、当該大学長または学校長の応募認可書を添えなければ願書の受付はしない。

以上の応募手続を了えた者に受験票を交付する。郵送により手続を取る場合、受験票は返送しないから必ず各自で試験の前日までに教務係まで受取りに来ること。

V 試験科目

(VI 試験科目の概要ならびに試験科目参照)

専門課程名	専門実技	試験科目	
		面接	語学
作曲	作曲法実技	英・独・仏・伊 から一ヶ国語	音楽史
声乐(含オペラ)	声乐実技	英・独・仏・伊 から一ヶ国語	音楽史
器楽	専攻器楽の実技	英、独、仏 から一ヶ国語	音楽史
指揮	指揮法実技 指揮に関連する実技	英、独、仏、伊 から一ヶ国語	①音楽史 ②音楽理論
邦楽	専攻実技	国 又は、英・独・語 仏から一ヶ国語	音楽史
邦楽	専攻実技	国 又は、英・独・語 仏から一ヶ国語	音楽史
音楽学	専攻論文	英・独・仏・伊 から二ヶ国語	①音楽史 ②音楽理論

(註) 声乐・器楽の音楽理論は三十八年度については試験を行なわない。ただし三十九年度から音楽理論を課する予定である。

VI 試験科目の概要ならびに試験科目

(A) 基礎学科目

- 音楽史について(作曲・声乐・器楽・指揮)(所要時間二時間)
声乐コース・鍵盤楽器コース・管弦打楽器コース(以上西洋音楽史) および邦楽コース(日本および東洋音楽史)の四

系列の内から一つを選んで受験する。程度は専門の音楽大学におけるコース別音楽史概説の程度を越えないものとする。

2. 音楽理論について (指揮) (所要時間三時間)

和声・対位法・楽式論・管弦楽法について課す。

(程度は大学学部卒業の程度)

(B)

1. 語学について (作曲・声楽・器楽・指揮・邦楽)

(所要時間二時間)

大学学部卒業の程度

2. 国語について (邦楽)

口述試問とする。

(C) 音楽学専門課程の基礎学科目について

一、音楽史 (所要時間二時間)

音楽史全般に関する筆答試問。

二、音楽理論 (所要時間二時間)

和声法・対位法・形式学に関する課題の実施と筆答試問。

三、外国語 (所要時間二科目四時間)

英・独・仏・伊・露・(羅)・(中)の中から2ヶ国語、ただ

し()内は本年度は課さない。

(D) 専門実技試験曲目

☆ 作曲専門課程

出願者は次の作品二曲を五月十六日(木)午後三時までに教務係に提出。(郵送による場合でも五月十六日に教務係に届

くこと)提出された作品を中心として実技試験当日口述試問を行う。

提出すべき作品について

1. 管弦楽曲(室内管弦楽曲を含む) 一曲 } 以上二曲。

2. 室内楽曲(独奏曲を含む) 一曲

☆ 声楽専門課程

自由曲として、アリア一曲、歌曲一曲の合計二曲を当日歌

わせる。

ただし、上記の二曲で十分前後のものを選択すること。

受験に際してピアノ伴奏者は受験者が試験当日同伴すること。

従って伴奏楽譜は提出しないでよい。

☆ 器楽専門課程

○ ピアノを専攻する者

一、課題曲

1. J. S. Bach: Wohltemperiertes Klavier Band 1.

Prälude und Fuge Nr. 4 cis-moll.

2. F. Chopin: Étude Op. 25 Nr. 6 gis-moll.

二、自由曲(上記課題曲以外のもの、途中で演奏を中止させることがある)

以上一、二の三曲共暗譜にて繰り返しは省略のこと。

○ オルガンを専攻する者

一、課題曲

J. S. Bach: Toccata et Fuga. [Dorisch]

二' 選択曲

- 1' J. S. Bach: コーラル前奏曲より一曲
- 2' César Franck の作品中より一曲

以上課題曲一曲と選択曲1'又は2'の中から一曲
合計二曲を当日演奏させる。

○ バイオリンを専攻する者

一' 課題曲

W. A. Mozart: Konzert für Violine.

K. 216 G-dur, K. 218 D-dur,

K. 219 A-dur, K. 268 Es-dur,

K. 271a D-dur,

上記の曲中より一曲を選び、その第一楽章を演奏する。

(Cadenza を含む)

二' 選択曲

N. Paganini, H. Wieniawski, H. Vieuxtemps,

C. Saint-Saëns, の作品中より一曲を選入して演奏する。

○ ヴイオリンを専攻する者

一' 課題曲

Weber: Andante e Rondo Ungarese

二' 選択曲 (上記のうちから一曲を複数)

1' Ernest Bloch: Suite for Viola and Piano

より第一楽章

2' Max Reger: Drei Suten für Bratsche Allein

(Op. 131d) より Nr. 1

3' Paul Hindemith: Der Schwanendreher

より第一楽章

4' Béla Bartók: Viola Concerto

より第一楽章

○ セロを専攻する者

一' 課題曲

J. S. Bach: 無伴奏 Sonate より Prelude

及び Sarabande

二' 自由曲

上記課題曲以外の曲二曲

○ コントラバスを専攻する者

一' 課題曲

D. Dragonetti: Concerto A-dur 全楽章

(Cadenza, E. Nanny)

○ ハープを専攻する者

課題曲 (下記の中から前日一曲指定する)

1' P. Hindemith: Sonata 第一・二・三楽章

2' G. Fauré : Impromptu

3' G. F. Händel : Konzert in B.

4' C. Salzedo : Theme and Variations on a old
theme.

② バイオリン・ビオラ・セロ・コントラバス・ハープ受験者
でピアノの伴奏を必要とする場合、試験当日伴奏者を同伴
するもの。

○ 管打楽器を専攻する者

(フルート・オーボエ・クラリネット・ファゴット・サクソフォン・トランペット・トロンボーン・ホルン・バリトン・テューバ・打楽器)

一、自由曲

管打楽器専攻者全員、下記の課題曲以外の曲一曲。

二、課題曲

フルート専攻者

J. S. Bach: Sonate a-moll 無伴奏

全楽章 繰返しなし。

オーボエ専攻者

W. A. Mozart: Concerto 第一楽章

クラリネット専攻者

Weber: Concerto No. 2 第三楽章

ファゴット専攻者

W. A. Mozart: Concerto B \flat 楽章は当日指定

サクソフォン専攻者

J. Ibert: Concertino 第一楽章

トランペット専攻者

J. Hubeau: Sonata 第一・第二楽章

トロンボーン専攻者

Händel: Concerto 楽章は当日指定

ホルン専攻者

R. Strauss: Concerto 全楽章

バリトン専攻者

Arban: Carnival of Venice

テューバ専攻者

A. Baucamp: Cortège

打楽器専攻者

M. Mihalovici: Improvisations

出版社=THEODORE PRESSER CO.

BRYN MAWR PENNA

HEUGEL et Cie PARIS

④ ピアノの伴奏を必要とする場合には受験生が伴奏者を当日

同伴すること。

☆ 指揮専門課程

一、適性検査

課題曲

L. v. Beethoven: Symphonie Nr. 6 F-dur

K. M. Weber: "Freischütz" Overture

上記の中一曲を選び、その一部分を試験の際指定する。

二、スコアリーダー

三、聴音

四、ピアノ

L. v. Beethoven: Sonate Op. 78 Fis-dur 第一・第二楽章

五、ピアノ初見

六、ピアノ以外の器楽実技

☆ 邦楽専門課程

④ 邦楽各専攻共、試験の際邦楽全般又はその専攻に関する簡単な口述試問を行う。

○ 三味線音楽を専攻する者(長唄・長唄三味線)

課題曲

長唄専攻者…………… 鞍 猿

三味線専攻者…………… 三曲糸の調べ

○ 箏曲を専攻する者(山田流・生田流)

課題曲

山田流専攻者…………… 桜 狩

生田流専攻者…………… 八重衣

○ 能楽を専攻する者(観世流・宝生流)

課題曲

観世流専攻者…………… 花 筐

宝生流専攻者…………… 砧

☆ 音楽学専門課程

一、専攻論文(所要時間二時間)

受験者各自の音楽学専攻分野に関するかんたんな論文を書かせる。

VII 試験実施日程・合格発表

5月21日 (火)	日(曜)	試験科目	試験時間 (開始～終了)	受験者の種類
音楽実技 (口述試問)	10・00開始	作曲法実技 (口述試問)	10・00開始	作曲専門課程志願者
声乐実技	10・00開始	声乐	声乐	〃

27日(月)	23日(木)		22日(水)		5月21日(火)					
合格者発表 午後2時	面接		外国語 (含 国語)		音楽理論	音楽史 (西洋 東洋)	音楽学論文	邦楽実技	指揮実技	器楽実技
	15・00 ～	13・00 ～	12・30 ～ 14・30	10・00 ～ 12・00	1313 0000 ～ 1615 0000	10・00 ～ 12・00	10・00 ～ 12・00	10・00開始	10・00開始	10・00開始
	音楽学	作曲・声乐・器楽・指揮	音楽学	邦楽・声乐・器楽・指揮	指揮 音楽学	邦楽・声乐・器楽・指揮 音楽学専門課程	音楽学	邦楽	指揮	器楽

(注意) 試験日割の変更・試験の順序・受験注意事項について五月二十日(月)午後揭示するから受験生は必ず本人で、これを見に来ること。

VIII 入学に関する事項

昭和三十八年五月二十七日(月)の合格発表後、直ちに合格者に入学手続および入学式の日時等についての書類を渡すから、合格者は受験票を持って音楽学部教務係に五月二十七日(月)午後五時までに来ること。

(入学式五月二十八日(火)十三時予定)

IX 入学金、授業料関係

一、入学金 一、五〇〇円

二、授業料 一八、〇〇〇円 (前、後期二回に分納)

前期分 九、〇〇〇円

三、楽器使用料

年額 一、二〇〇円 (横組)

(昭和三十八年度 東京芸術大学大学院音楽研究科(修士課程) 学生募集要項)

昭和三十九年度

昭和三十八年度には「各専攻とも若干名」であつた募集予定人員が専門ごとに明記される。

また試験科目では、作曲が「作曲法実技」から「作品審査」となり、音楽学は「専攻論文」の他に「口述試験」が加わる。

I 募集予定人員

専門課程名	募集人員
作曲専門課程	六名
声楽	一〇名
器楽	二二名
指揮	二名
邦楽	六名
音楽学	四名
合計	五〇名

(注)

応募者は、志望する専門課程中の一つの専攻に限り出願することができる。

(声楽の場合は一つの声種)

V 試験科目

(VI試験科目の概要ならびに試験科目参照)

専門課程名	試験科目	試験科目	
		面接	試験
作曲	作品審査	英語・独・仏・伊 から一ヶ国語	音楽史
声楽 (含オペラ)	声楽実技	英語・独・仏・伊 から一ヶ国語	音楽史
器楽	専攻器楽の 実技	英語・独・仏・伊 から一ヶ国語	音楽史
指揮	指揮実技 指揮に関連する 実技	英語・独・仏・伊 から一ヶ国語	音楽史
邦楽	邦楽実技	英語・独・仏・伊 から一ヶ国語	音楽史
音楽学	口専攻 専攻論文 試験文	英語・独・仏・伊 から二ヶ国語	①音楽学 ②音楽理論

(注)

1. 作曲・声楽・器楽・指揮・邦楽専門課程の音楽理論は三十九年度は試験を行わない。ただし、四十年から音楽理論を課する予定である。

2. 邦楽専門課程志願者の英・独・仏語は三十九年度は試験を行わない。ただし四十年からは外国語を課する予定である。

(横組)

(昭和三十九年度 東京芸術大学大学院音楽研究科(修士課程) 学生募集要項 一、三頁)

昭和四十年年度

音楽学の試験科目から口述試験と音楽理論が廃止される。また、邦楽の語学は国語のみとなる。

V 試験科目

(VI試験科目の概要ならびに試験科目参照)

音楽学	邦楽	指揮	器楽	声楽 (含オペラ)	作曲	専門課程名	試験科目	
							専門実技	面接
専攻論文	邦楽	指揮 実技	器楽 実技	声楽 実技	作品 審査	面接	語学	基礎 学 科目
面接試験問							英・独・仏・伊 から一ヶ国語	音楽史
面接試験問							英・独・仏・伊 から一ヶ国語	音楽史
面接試験問							英・独・仏・伊 から一ヶ国語	音楽史
面接試験問							英・独・仏・伊 から一ヶ国語	音楽史

(横組) (昭和四十年年度 東京芸術大学大学院音楽研究科(修士課程) 学生募集要項「三頁」)

昭和四十二年年度

オペラ専攻の入学試験に演技適性検査が導入され、「大学が与えるテ-

マに依り受験者の自由な解釈にもとづく、簡易な演技を動作のみによつて(パントマイム)行う。」という課題が追加される。

昭和四十四年度

音楽教育専攻が新たに設置された。試験科目の項を掲載する。

V 試験科目

(VI試験科目の概要ならびに試験科目参照)

音楽学	邦楽	指揮	器楽	声楽 (含オペラ)	作曲	専門課程名	試験科目	
							専門実技	面接
専攻論文	邦楽	指揮 実技	器楽 実技	声楽 実技	作品 審査	面接	語学	基礎 学 科目
面接試験問(他大学出身者のみ)							英・独・仏・伊 から一ヶ国語	音楽史
面接試験問							英・独・仏・伊 から一ヶ国語	音楽史
面接試験問							英・独・仏・伊 から一ヶ国語	音楽史
面接試験問							英・独・仏・伊 から一ヶ国語	音楽史

音楽教育	(1) 次の中から一種を選んで受験する 作曲：作品審査
音楽学	声楽 器楽 指揮 邦楽 実技試験
音楽学	…専攻論文
(2) 音楽教育についての小論文	
(3) 口述試験	
面接試問（他大学出身者のみ）	
英・独・仏・伊 から一ヶ国語	
音楽史	

◎ 音楽教育専攻者

出願の際自己が選んで受験する「専攻実技」について上記の各専門課程志願者に課せられたものと同一の試験科目について行なう。

〔横組〕

五、九頁
〔昭和四十四年度 東京芸術大学大学院音楽研究科（修士課程）学生募集要項〕

昭和四十五年度

音楽教育専攻者で実技をピアノで受験する者は、器楽専門課程志願者でピアノ専攻の者とは異なる課題曲となる。

◎ ピアノを専攻する者

一 課題曲

1. D. Scarlatti: Sonates (Ricordi版)の中から自由選択により一曲を課する。

2. L. v. Beethoven: Sonates Op. 101, Op. 109, Op. 110, Op. 111の中から自由選択により一曲を課する。
 3. F. Chopin: a) Etude Op. 25 No. 6 gis-moll
b) Nocturne Op. 27 No. 1 cis-moll
 4. 穴戸睦郎: Toccata
- 但し、音楽教育専攻者は上記の2.及び3.のbのみを課する。
以上を暗譜で演奏すること。繰り返しはすべて省く。

二 初見視奏

〔注〕 本学部卒業者は、学部卒業試験に演奏した曲と重複しないこと。

〔昭和四十五年度 東京芸術大学大学院音楽研究科（修士課程）学生募集要項〕
六、七頁

昭和五十一年度

ソルフエージュ専攻が新たに設置された。「V試験科目」と、「VI試験科目」の概要ならびに試験曲目」から「基礎学科目」と「ピアノを専攻する者」「ソルフエージュ専攻者」を掲載する。

V 試験科目

〔VI試験科目の概要ならびに試験曲目参照〕

ソルフェージュ 作曲：作品審査 (口述試問)	音楽教育 声楽 器楽 指揮 邦楽 音楽学：専攻論文 作曲：作品審査 (口述試問)	音楽学 専攻論文	指揮 実技 (指揮に関連する実技)	器楽 専攻器楽の実技	(声楽 オペラ) 声楽実技	作曲 (口述試問)	専門課程 および 攻分野名	試験 科目
							専門実技	面接
面接試験								
基礎学科目・語学について は、出願の際に選 んだ専門課程に課せら れたものと同じである		英・独・仏・ 伊・国語・古文 (日本・東洋 音楽史専攻者 のみ) 科目	英・独・仏・ 伊・国語・ 音楽史	語学	基礎学科目			

VI

◎ 音楽学専門課程志願者ならびに音楽学を専攻分野とする音楽教育専攻志願者およびソルフェージュ専攻志願者を除く各専門課程志願者の基礎学科目・語学の試験については、調査書審査の結果にもとづき、これを免除することがある。

1. 基礎学科目

(1) 音楽史について(作曲・声楽・器楽・指揮・邦楽)所要時間二時間

声楽を中心とする音楽史、鍵盤楽器を中心とする音楽史、弦楽、管打楽器を中心とする音楽史(以上西洋音楽史)および日本を含む東洋音楽史の四系列の内から一つを選んで受験する。程度は専門の音楽大学における各科またはコース別音楽史概説の程度をこえないものとする。

(2) 音楽学について(音楽学)所要時間二時間

音楽美学、音楽理論、西洋音楽史、日本・東洋音楽史の四部門から二部門を選んで受験する。

2. 語学

(1) (作曲・声楽・器楽・指揮)所要時間一科目一時間三十分

邦楽	ソルフェージュ	声楽 器楽 指揮 邦楽 音楽学：専攻論文	実技試験
専攻実技	邦楽	音楽学：専攻論文	実技試験
面接試験			
国語	音楽史		

英・独・仏・伊のうちから一科目（辞書を使用させる）
……大学学部卒業の程度。

(2) (音楽学) 所要時間二科目三時間

英・独・仏・伊のうちから二科目（辞書を使用させる）

ただし、日本・東洋音楽史専攻志願者は、うち一科目を国
語古文にかえることができる。

(3) (邦楽) 所要時間一科目一時間三十分

国語……大学学部卒業の程度。

◎ 音楽教育専攻志願者およびソルフェージュ専攻志願者の

「1. 基礎学科目」「2. 語学」は、出願の際に選んだ専門
課程に課せられたものと同じである。

4. 専門実技

☆器楽専門課程志願者

◎ ピアノを専攻する者

課題 曲

1. Beethoven: Sonata Op. 101, 109, 110, 111 のうち一つを
選んで演奏すること。

2. Chopin: Mazurka Op. 50, No. 3 または Op. 56, No. 3 の
いずれかを選んで演奏すること。

3. A. Schönberg: Drei Klavierstücke Op. 11, No. 1, 2, 3
全曲

4. 初見視奏

ただし、音楽教育専攻志願者およびソルフェージュ専攻志

願者には上記の1.と4.を課し、場合により一部を省略さ
せることがある。

演奏順序は上記配列順とし、暗譜で演奏すること。繰り返し
しは省略する。

◎ ソルフェージュ専攻者

1. ソルフェージュ試験

(1) 実技試験

a. 聴音(単旋律・複旋律・四声体和声)……昭和五十

一年度はピアノによる。

b. 各種の音部記号を用いた初見視唱……昭和五十

一年度は高音部・低音部・ソプラノ・アルト・テノ

ールの各音部記号を用いる。

c. ピアノによる初見視奏……昭和五十

一年度は弦楽四重奏曲の総譜をピアノにより奏す

る。

d. バスおよびソプラノの旋律課題を与え
て、それぞれ四声体和声を作る。
作曲専門課程

e. 主題を与えて、三声の対位法的作法に
よる楽曲を作る。
で受験する者
は除く。

(注意) eは、昭和五十一年度は実施しない。
(2) ピアノ実技試験……ピアノ専攻およ

び指揮専門課程で受験する者は除く

課題 曲

J.S. Bach: 平均律ピアノ曲第一集・第二集より、プレリ

ユードとフーガ一曲を選び暗譜で演奏する。

- 2. 口述試験
- 3. 専攻実技試験

出願の際に選んだ専門課程に課せられたものと同一の試験科目について行う。

大学院ソルフェージュについて

大学院ソルフェージュ専攻は、音楽の演奏・創作・研究・教育に必須のソルフェージュに関する高度の技術と理論を研究教授することを目的とする。

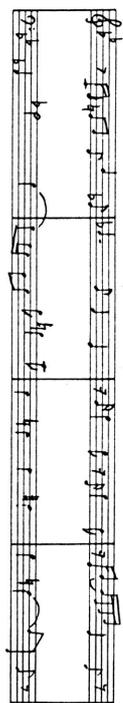
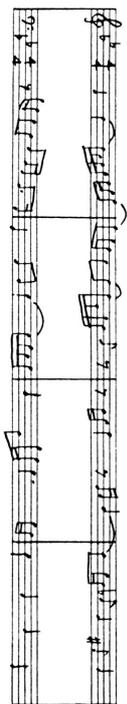
ソルフェージュ実技試験の程度について。

- (1) 聴音に関する例題。

旋律聴音



複旋律聴音



四声体和声聴音

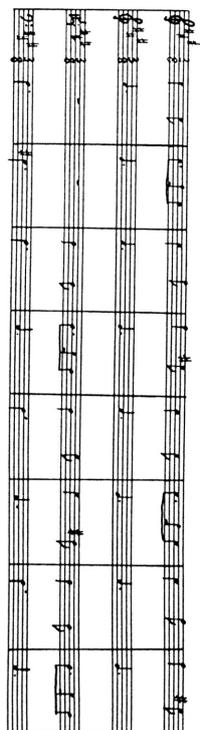


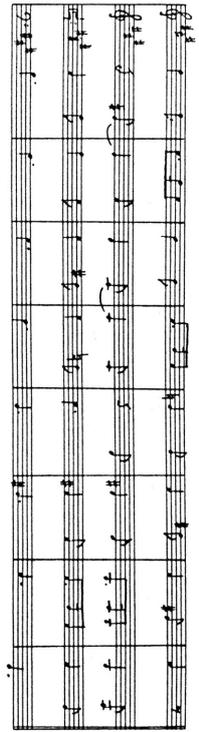
- (2) 初見視唱に各種音部記号を用いた例題。

初見視唱 (この例題は七種の音部記号を用いている)



- (3) ピアノによる初見視奏の例題。(弦楽四重奏の総譜をピアノで視奏する)





(4) 和声は「和声(理論と実習)」(音楽之友社版)の第三巻終了程度のもを課する。

(5) 三声の対位法的作法による楽曲の例題
主題の例



与えられた主題による三声の対位法的作法による楽曲の例



〔横組〕(東京芸術大学大学院音楽研究科(修士課程)学生募集要項)昭和五十二年七月発行 三〜一一頁

昭和五十二年度

募集人員が変更される。また、室内楽専攻の課題が掲載される。室内楽専攻の設置は昭和五十一年度であったが、五十一年度の募集要項には室内楽の入試課題は掲載されていない。
募集人員および室内楽関連部分を掲載する。

I 募集人員

専門課程名	募集人員
作曲専門課程	九名
声乐	二〇名
器楽	四三名
指揮	三名
音楽学	一五名
邦楽	九名
合計	九九名

〔注意〕

(1) 出願者は、志願する専門課程中の一つの専攻に限り出願することができる。

(声乐の場合は一つの声種)

(2) 器楽専門課程の募集人員には室内楽の定員四名を、音楽学専門課程の募集人員には音楽教育の定員三名、ソルフェージュの定員三名を含む。

VI 試験科目の概要ならびに試験科目

◎ 室内楽を専攻する者

昭和五十二年度の募集は次の各楽器を専攻する者のみとする。

受験生は各自で協演者を用意すること。

1. 弦楽器はバイオリン・ビオラ・チェロ
2. 管楽器はフルート・オーボエ・クラリネット・ホルン・

バスーン

- 弦楽器を専攻する者

課題曲

各専攻楽器の大学院入試課題曲の中より Bach 以外の一曲と次の課題曲計二曲を演奏すること

Beethoven : Streichquartett e-moll Op. 59 Nr. 2

第一楽章 Allegro

第二楽章 Molto Adagio

(注意) バイオリンで受験する者は第一バイオリンのパートを弾くこと。

時間の都合で一部を演奏させることがある。

- 管楽器を専攻する者

課題曲

(1) 各専攻楽器の大学院入試課題曲を演奏すること

(2) 木管五重奏曲

次のA群およびB群より一曲ずつ計二曲を演奏すること。

A 群

Franz Danzi Bläserquintett B-Dur op. 56 Nr.1

Anton Reicha Bläserquintett Es-Dur op.88 Nr.2

Joseph Haydn Divertimento B-Dur ("Chorale St. Antoni" 付※)

Paul Taffanel Quintette à vent en sol mineur

B 群

Paul Hindemith Kleine Kammermusik op.24 Nr.2

Jacques Ibert Trois Pièces Brèves

Darius Milhaud La Cheminée du Roi René

Jean Françaix Quintette

大学院室内楽について

大学院室内楽専攻は高度な専門技術をもとにして室内楽の実習・演習の専門的研究を行うことを目的とする。 [横組]

(「東京藝術大学大学院音楽研究科(修士課程)学生募集要項」昭和五十一年七月発行 三、七〜八頁)

昭和五十四年度

「VI 試験科目の概要並びに試験曲目」中、音楽教育志願者とソルフェージュ志願者の「3」項に「ピアノにより受験する者」の課題曲が記載される。前年度まではこれらの課題曲は、器楽専攻ピアノ志願者の中に含めて記載されていた。

☆音楽学専攻

◎ 音楽教育志願者

1. 音楽教育についての小論文

2. 口述試問

3. 作品審査及び実技試験

出願の際に選んだ専攻に課せられたものと同一の試験科目について行う。

ただし、ピアノにより受験する者については次の課題

曲による。

(1) J.S. Bach: 平均律ピアノ曲第二集より No.22
Fugeのみ

(2) Chopin: Ballade 又は Scherzo より任意の
一曲

(3) 初見視奏

◎ ソルフエージュ志願者

1. ソルフエージュ試験

(1) 実技試験

a. 聴音(単旋律・複旋律・四声体和声)……ピアノ
による。

b. 各種の音部記号を用いた初見視唱……高音部・低
音部・ソプラノ・メゾソプラノ・アルト・テノ
ール・バリトンの各音部記号を用いる。

c. ピアノによる初見視奏……弦楽四重奏の総譜をピ
アノにより奏する。

d. バス及びソプラノの旋律課題を与
えて、それぞれ四声体和声を作
る 作曲専攻で受
験する者は除
く。

e. 主題を与えて、三声の対位法的作
法による楽曲を作る 験する者は除
く。

(2) ピアノ実技試験……ピアノ及び指揮専攻で受験
する者は除く。

課題曲

J.S. Bach: 平均律ピアノ曲第一集・第二集よりプレリ
ュードとフーガ一曲を選び暗譜で演奏する。

2. 口述試験

3. 作品審査及び実技試験

出願の際に選んだ専攻に課せられたものと同じの試験
科目について行う。

ただし、ピアノにより受験する者については次の課題
曲による。

(1) J.S. Bach: 平均律ピアノ曲第二集より No.22

Fugeのみ

(2) Chopin: Ballade 又は Scherzo より任意の

一曲

(3) 初見視奏

(横組)

(東京藝術大学大学院(修士課程)音楽研究科学生募集要項、昭和五十三年七月
発行 九〜一〇頁)

昭和五十五年度

一般大学出身者に対して、音楽に関する基礎能力検査が行われる。

5. 音楽に関する基礎能力検査

一般大学出身者(専門音楽大学出身者を除く。ただし、教員養成
大学の音楽課程修了者は一般大学に含まれる。)に対して、音楽
に関する基礎能力検査を次のとおり行う。(第一期試験合格者の
み)

(A) 作曲・声楽・器楽・指揮・音楽学の各専攻（音楽教育及びソルフェージュを含む）志願者

ピアノ・ハイドン及びモーツァルトのピアノソナタの任意の一曲。全楽章。

ソルフェージュ・聴音（次の頁の例題の程度のもの）
（ピアノ専攻を除く。）
（ソルフェージュ専攻を除く）

初見視唱（次の頁の例題の程度のもの）
（ソルフェージュ専攻を除く）

楽典

和声・ソプラノ及びバス課題を与えて簡単な転調を含む四声体の和音の連結をつくる。（作曲専攻を除く）

(B) 邦楽専攻（音楽教育及びソルフェージュを含む）志願者

(1) 次の副科実技を行う

専攻名	副科実技
長唄	長唄三味線・長唄囃子（四拍子より一楽器）
長唄三味線	長唄・同上（同）
長唄囃子	専攻以外の四拍子より一楽器・長唄又は三味線（上）
能楽	能楽囃子（四拍子より一楽器）
能楽囃子	専攻以外の四拍子より一楽器・謡曲

曲目は自由

(2) 西洋音楽理論

ソプラノ及びバスの課題を与えて属七迄の四声体の和音の連結をつくる。

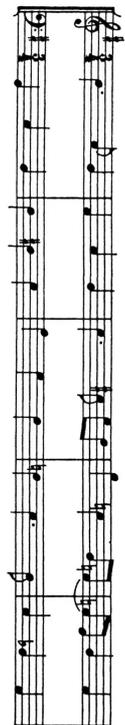
(3) 面接試験を行う。

聴音例題

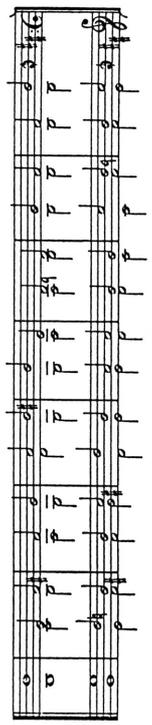
1 単旋律



2 複旋律



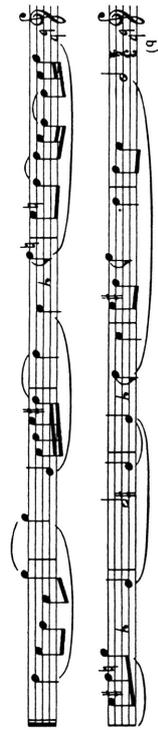
3 和声



初見視唱例題

視唱





(横組) (東京藝術大学大学院 (修士課程) 音楽研究科学生募集要項) 昭和五十四年七月発行 一二〜一三頁)

昭和六十二年度

昭和六十二年度

東京芸術大学

大学院音楽研究科 (修士課程)

学生募集要項

東京芸術大学

〒一一〇 東京都台東区上野公園二一―八

電話 〇三(八二八)六一―一

入学志願者への受験上の注意事項

- (1) 試験実施日時は、出願者数によって多少変更することがある。その場合試験開始日の前に、試験に関する注意事項と同時に新日程を音楽学部内に掲示するので志願者自身が必ず見に来ること。(XIV 選抜試験実施日程表参照のこと)。

(2) 試験に関する諸事項は、すべて掲示により発表するので、常に掲示に注意すること。掲示に記載の番号は、本学受験票の受験番号である。

(3) 実技試験における「試験の順番」は、係員の指示による。

(4) 試験当日は集合時刻を厳守すること。

実技試験において、定められた集合時刻に遅れた者は、受験を許可しない。

(万一やむをえない事情により遅れた場合は、ただちに係員に申し出ること)。

(5) 試験当日、受験生(伴奏者を含む)は、試験に関する掲示を見てから指定された集合場所に入り、以後は、すべて係員の指示に従うこと。

(6) 受験生の集合場所及び控室は、各科共通の控室であるので、発声又は楽器の練習を禁ずる。また、集合場所・控室から試験場へ行く途中の廊下等においても同様に禁ずる。

(7) 音出し室、控室にあるピアノの使用は禁ずる。ただし、ピアノ専攻受験生は、係員の指示に従うこと。

(8) 受験の際には、受験票を常に携帯し、入構の際に守衛所の係員に提示して入構すること。万一受験票を忘れた場合には、係員に申し出ること。

なお、受験票中に注意事項が列記してあるので、読んでおくこと。

(9) 食事のため学外に出る場合には、正門出入の際に守衛所の係員に受験票を提示すること。

(10) 試験に関するの電話による問合せは一切応じない。

(11) 本学に駐車はできない。

(横組)

目 次

〔原資料中のページ〕

I 募集人員	1 頁
II 選 抜 方 法	1 〃
III 出 願 資 格	1 〃
IV 修 業 年 限	2 〃
V 出 願 手 続	2 〃
VI 選 抜 試 験 場	4 〃
VII 試 験 科 目	4 〃
VIII 試験科目の概要並びに試験曲目	5 〃
IX 最終合格者発表	16 〃
X 検定料・入学科・授業料	16 〃
XI その他の経費	16 〃
XII 研究室及び指導教官	16 〃
XIII 選 抜 期 日	18 〃
XIV 選抜試験実施日程表	折込
入学願書等提出書類	折込

I 募集人員

専 攻	研究分野	募集人員	専 攻	研究分野	募集人員
作曲専攻	作 曲	9 名	音楽学専攻	音 楽 学	15 名
声乐 〃	独 唱	20 名		音 楽 教 育	
	オ ペ ラ			ソルフェージュ	
器 楽 〃	ピ ア ノ	43 名	邦 楽 〃	三 味 線 音 楽	9 名
	オ ル ガ ン			箏 曲	
	弦 楽			尺 八	
	管 打 楽			能 楽	
	室 内 楽				
指揮 〃	指 揮	3 名	合 計		99 名

〔注意〕

- (1) 出願者は、志願する専攻中の1つの研究分野に限り出願することができる。
(声乐の場合は1つの声種、室内楽の場合は個人又はグループ)
- (2) 器楽専攻の募集人員には室内楽の定員4名を、音楽学専攻の募集人員には音楽教育の定員3名、ソルフェージュの定員3名を含む。

II 選 抜 方 法

入学者の選抜は、専攻実技・音楽に関する基礎能力検査・学力検査・健康診断書・面接及び出身大学長から提出された調査書・推薦書の各資料を総合して判定する。

III 出 願 資 格

本大学研究科に出願できる者は、次の各項の1つに該当する者とする。

1. 大学を卒業した者（昭和62年3月卒業見込の者を含む。）
2. 大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者
次の各号の一つに該当する者とする。
 - (1) 旧大学令による大学を卒業した者
 - (2) 旧高等師範学校規程による高等師範学校専攻科を卒業した者
 - (3) 旧師範教育令による高等師範学校または女子高等師範学校の修業年限1年以上の研究科を修了した者
 - (4) 旧中等学校令による中学校若しくは高等女学校を卒業した者又は旧専門学校入学者検定規程により、これと同等以上の学力を有するものと検定された者を入学資格とする旧専門学校令による専門学校で修業年限（予科の修業年限を含む。）5年以上の専門学校を卒業した者又は修業年限4年以上の専門学校を卒業し修業年限4年以上の専門学校に置かれる修業年限1年以上の研究科を修了した者
 - (5) 防衛庁設置法（昭和29年法律第164号）による防衛大学校又は防衛医科大学校を卒業した者
 - (6) 農林水産省組織令（昭和27年政令第389号）による水産大学校（昭和59年7月1日前の農林水産省設置法（昭和24年法律第153号）による水産大学校を含む。）を卒業した者（旧水産庁設置法（昭和23年法律第78号）による水産講習所を卒業した者を含む。）
 - (7) 運輸省組織令（昭和59年政令第175号）による海上保安大学校（昭和59年7月1日前の海上保安庁法（昭和23年法律第28号）による海上保安大学校を含む。）を卒業した者
 - (8) 職業訓練法（昭和44年法律第64号）による職業訓練大学校の長期指導員訓練課程を修了した者（旧職業訓練法（昭和33年法律第133号）による中央職業訓練所または職業訓練大学校の長期指導員訓練課程を修了した者を含む。）
 - (9) 運輸省組織令による気象大学校（昭和59年7月1日前の運輸省設置法（昭和24年法律第157号）による気象大学校を含む。）の大学部を卒業した者
 - (10) 大学（短期大学を含む。）に2年以上在学し、62単位以上修得した者で、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）による小学校、中学校若しくは幼稚園の教諭の一級普通免許状又は高等学校教諭免許状を有するもの
 - (11) 旧国立養護教諭養成所設置法（昭和40年法律第16号）による国立養護教諭養成所を卒業した者で、教育職員免許法による中学校教諭一級普通免許状を有するもの
 - (12) 旧国立工業教員養成所の設置等に関する臨時措置法（昭和36年法律第87号）による国立

工業教員養成所を卒業した者で、教員職員免許法による高等学校教諭免許状及び3年以上教員として良好な成績で勤務した旨の所轄庁の証明を有するもの

(13) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者

(14) その他本大学院研究科において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

IV 修業年限 2年

V 出願手続

1. 願書受付期間

昭和61年9月1日（月）から昭和61年9月5日（金）までの郵便局の消印があるものを受け付ける。（郵送消印受付）

（注）入学願書を直接大学に持参したもの、又は郵便局の消印が上記期間外のもの、いかなる理由があっても受け付けない。

2. 提出書類

出願者は、次表①から⑤までの該当する書類及び検定料18,000円（普通為替）を本学所定の封筒により「書留速達」で郵送すること。

（注）検定料は郵便局の普通為替とし、指定受取人欄、払渡郵便局名及び受領欄等は一切記入しないこと。

書 類	様 式 等	記 入 要 領 等
① 入学願書	本学所定の 様 式	入学願書に記入する氏名は、必ず戸籍と同一文字でなければならない。その他の提出書類についても同様である。
② 推 薦 書	〃	所定の欄に出身大学長(研究科長)が推薦したもの。(本学の卒業生、卒業見込者は不要) (注) 推薦書を封緘しないよう証明者に申し出ること。
③ 履 歴 書	〃	音楽学習履歴欄の記入は、大学での授業等に含まれる発表会等を省略してもよい。
④ 健康診断書	〃	所定の欄に証明を受けること。本学卒業見込者で、61.4に本学の定期健康診断を受けた者は、保健管理センターで証明を受けてもよい。 なお、受付は61.8.28(木)～61.9.3(水)の間の9:30～16:30(12:30～13:30は、昼休み、土曜日は午前中のみ)とする。 (注) 身体障害の申し出について 身体に障害があり、修学上又は入学試験の実施上特別な配慮を必要とする入学志願者は、あらかじめ音楽学部教務係に申し出て、大学と協議のうえ出願するものとする。
⑤ 写 真 票	〃	写真は、明らかに志願者本人であることが認められる脱帽、上半身、正面向で昭和61年6月以降に撮影したものを写真票の所定の欄に貼ること。 (スナップ写真は不可)

⑥ 受験票 返信用 郵便はがき	本学所定の 様式	受験票裏面は、「返信用郵便はがき」となっているので、受験者自身が、自己の住所・氏名・郵便番号を明記し、所要の切手を貼ること。なお、遠隔地の場合は、速達扱いにしておくことが望ましい。
⑦ 領収証書	〃	氏名欄のみ受験者自身が記入すること。
⑧ 原符	〃	〃
⑨ 調査書	〃	出身大学長又は学部長が証明したもの。(本学の卒業者、卒業見込者は不要。)
⑩⑪⑫ 受験曲目	〃	提出は、声楽(独唱・オペラとも)専攻者、弦楽(ヴァイオリン)専攻者、管打楽器専攻者、室内楽(個人受験の管楽器選択者のみ)専攻者及び指揮専攻者。
⑬ 能楽囃子 提出用紙	〃	提出は、邦楽(能楽囃子)専攻者のみ。
⑭ 受験許可書	様式随意	現に教職その他の公職にある者及び会社等に在職中で、服務義務のある者は、所属長の受験許可書を、また現に大学院その他の学校に在学中の者(昭和62年3月に修了卒業見込の者を除く。)は、当該大学長又は学校長の受験許可書を添付すること。
⑮ 外国人登録 証明書等	市区町村 発行の様式	外国人は、旅券又は外国人登録証明書(在留資格が明示されたもの。)の写しを添付すること。

- (注) 1. ①～⑧までの書類は、一連綴りのまま提出すること。
2. 願書等受理後は、いかなる事情があっても書類の変更・検定料の払い戻しはしない。
3. 室内楽をグループで受験する場合も、必ず個々に出願すること。
3. 願書提出先 〒110 東京都台東区上野公園12-8 東京芸術大学音楽学部教務係
4. 受験票
以上の出願手続を行った者には、受験票を送付する。
※受験票が9月20日(土)までに送達されないときは、音楽学部教務係へ連絡の上、書留郵便受領書をもって申し出ること。

VI 選抜試験場

東京芸術大学音楽学部 東京都台東区上野公園12-8

- 国電—上野，鶯谷駅下車，徒歩約10分
- 地下鉄—千代田線根津駅下車，徒歩約10分

VII 試験科目

(Ⅶ試験科目の概要並びに試験曲目参照のこと。)

専攻等	試験科目				
	専攻実技	語学	基礎科目	面接	基礎能力
作曲	作品審査及び口述試問	英・独・仏・伊語から1科目	音	面	音楽に関する基礎能力検査(他大学出身者のみ)
声乐 (独唱・オペラ)	声乐実技 (演技適性検査)				
器楽	専攻器楽の実技 ただし、室内楽志願者は 1. 室内楽の実技 2. 専攻楽器の実技(個人受験者のみ)				
指揮	指揮適性検査 指揮実技				
音楽学	1. 専攻論文学 2. 音楽学 3. 口述試問	英・独・仏・伊・露語及び 国語古文(日本・東洋音楽 史志願者のみ)から2科目	楽	接	試
音楽教育	1. 音楽教育についての小論文 2. 口述試問 3. 次の中から1種を選択し、 受験する 作曲…作品審査及び口述試問 声乐実技試験 器楽実技試験 指揮実技試験 邦楽実技試験 音楽学 { 専攻論文学 音 楽 学 }	語学は、上記区分のいずれか。 (左記3.の中で選択し、受験する専攻に課せられたものと同じである。)			
ソルフェージュ	1. ソルフェージュ試験 2. 口述試問 3. 次の中から1種を選択し、 受験する 作曲…作品審査及び口述試問 声乐実技試験 器楽実技試験 指揮実技試験 邦楽実技試験 音楽学 { 専攻論文学 音 楽 学 }				
邦楽	専攻実技試験 口述試問	国語	史	問	

→ 音楽教育志願者・ソルフェージュ志願者の器楽実技試験に室内楽は含まない。

VIII 試験科目の概要並びに試験曲目

科 目	概 要	
専攻実技	6頁～13頁〔本書527～534頁〕に記載	
語 学	作曲 声乐 器楽 指揮 専攻	英・独・仏・伊語の中から1科目選択……大学学部卒業の程度 ※辞書使用可 試験時間：1時間30分
	音楽学専攻	英・独・仏・伊・露語の中から2科目選択……大学学部卒業の程度。ただし、日本・東洋音楽史志願者は、うち1科目を国語古文にかえることができる。 ※国語古文以外の科目は、辞書使用可 試験時間：3時間（2科目）
	邦楽専攻	国語1科目……大学学部卒業の程度。 ※辞書使用不可 試験時間：1時間30分
	音楽教育 ソルフェージュ の各志願者	上記区分のいずれか。（出願の際に選択し、受験する専攻に課せられたものと同じである。）
基礎学科目	<p>音楽史について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○声楽を中心とする音楽史 ○鍵盤楽器を中心とする音楽史 ○弦楽・管打楽を中心とする音楽史 ○日本を含む東洋音楽史 <p style="text-align: right;">} 西洋音楽史</p> <p>上記の4系列から1つを選んで受験する。程度は、専門の音楽大学における各科又はコース別音楽史概説の程度をこえないものとする。</p> <p>試験時間：2時間</p>	
面 接	他大学出身者及び本学出身者であっても学部の専攻と大学院の専攻が異なるものに対して行う。	
音楽に関する 基礎能力検査	他大学出身者に対して、ピアノ・ソルフェージュ・和声等の試験を行う。 詳細については、14頁〔本書535頁〕に記載してある。	

1. 専攻実技

専攻	声種・楽器等	課題曲等
作曲	× ×	<p>次の作品2曲を昭和62年2月16日(月)正午までに直接又は郵送により音楽学部教務係に提出のこと。ただし、音楽教育又はソルフェージュの志願者で作曲により受験する者の提出期限は、昭和61年9月19日(金)午後3時までとする。(郵送による場合も上記期限までに教務係に届くよう発送のこと。)</p> <p>1. 管弦楽曲(室内管弦楽曲及び独奏、独唱、合唱等を伴うものを含む) 1曲 } 計2曲 2. 上記1.以外の器楽曲又は声楽曲 1曲 }</p> <p>3. なお、希望者は、電子音楽作品(テープに録音したもの)を上記作品2曲と併せて提出することができる(計3曲)。この場合には、テープ速度・チャンネル数その他のデータを必ず添えること。</p> <p>実技試験当日提出された作品を中心として、口述試問を行う。</p>
声乐	ソプラノ(S) アルト(A) テノール(T) バス(B)	<p>声乐専攻志願者の入学試験は現在、独唱・オペラの区別なく行っている。合格者が入学後独唱・オペラのいずれに所属するかについては、志願者の希望と適性を考慮の上、入学許可時に決定する。</p> <p>1. 歌唱実技試験</p> <p>歌唱実技試験は2回に分けて行う。第1回には自由曲Ⅰを、第2回(第1回合格者のみ)には自由曲Ⅱから当日指定される数曲と自由曲Ⅲをそれぞれ暗譜で演奏する。</p> <p><u>自由曲Ⅰ</u> 任意のアリア又は歌曲1曲</p> <p><u>自由曲Ⅱ</u>(自由曲Ⅰで選んだ曲は除く。) 次の(A)及び(B) (A) アリア (1) オペラ作品のアリア(一般にアリアとして扱われているロマンス、カヴァティーナ等を含む。) (2) 宗教曲のアリア(演奏会用アリア、世俗カンタータ、世俗オラトリオ等のアリア又はそれに準ずるものを含む。)</p> <p>上記の(1),(2)の中から任意の3曲。(いずれかの一方から3曲を選んでよい。)</p> <p>ただし、一般に歌曲として扱われている古典アリアは(A)の中に含まれない。</p> <p style="text-align: right;">(次頁ニ続く)</p>

専攻	声種・楽器等	課 題 曲 等
声 楽	ソプラノ (S) アルト (A) テノール (T) バ ス (B)	<p>(B) 歌 曲 任意の歌曲4曲 自由曲Ⅲ (自由曲Ⅰ, Ⅱで選んだ曲は除く。) J. S. バッハ, ヘンデル, グルック, ハイドン, モーツアルトの作品から任意のアリア又は歌曲1曲。 (注) ○自由曲Ⅰ, Ⅱ, Ⅲの計9曲を所定の用紙(「受験曲目提出用紙」)に記入し, 出願時に提出する。 ○演奏はピアノ伴奏とし, 伴奏者は受験者が同伴すること。 ○演奏は曲の途中で打切られることがある。 ○受験者は, 各自で, 曲目と曲番を控えておくこと。試験当日は, 曲番で指定する。</p> <p>2. 演技適性検査</p> <p>歌唱実技試験合格者のうち, 願書の「希望研究室の名称」の第1希望又は第2希望欄に<u>声楽第5研究室(オペラ)</u>を記入した志願者には, 簡単な演技適性検査を行う。</p>
器 楽	ピ ア ノ (P) オルガン (Og)	<p>1. Mozart: Rondo a-moll KV. 511</p> <p>2. Chopin: Etudes Op. 25 全曲</p> <p>(注) ○2は当日抽選により数曲演奏する。 ○演奏順序は上記1, 2の順とし, 暗譜で演奏すること。繰り返しは省略する。 ○時間の都合で一部を省略することがある。</p> <p>1. J. S. Bach: Trio Sonate No. 6 G-dur (BWV530) 2. César Franck: Choral No. 2 si mineur 3. Paul Hindemith: Sonate II 4. 即興実技試験: 提示された主題による変奏曲 (注) ○1, 2, 3は暗譜とし, 繰り返しは省略する。 ○試験前日には, 試奏時間(レジスター・タイム)を与えるので, 掲示に注意すること。</p>

専攻	声種・楽器等	課 題 曲 等				
器 楽		<p>◎ 弦楽器共通注意事項 (ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス・ハープ)</p> <p>○演奏はすべて暗譜とし、繰り返しは省略する。 ○志願者は、試験当日伴奏者を同伴すること。 ○当日、時間の都合により一部省略することがある。</p>				
	ヴァイオリン (Vn)	<p>1. J. S. Bach: Solo Sonata のフーガ 3 曲の中から任意の 1 曲 2. N. Paganini: 24 Caprices Op. 1 より任意の 3 曲を提出し、 その中から 1 曲当日指定する。 ※所定の「受験曲目提出用紙」に記入し、出願時に提出すること。</p> <p>3. 次の中から任意の 1 曲</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;">(1) Beethoven: Concerto 第 1 楽章</td> <td rowspan="2" style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: middle;">カデンツァは Kreisler か, Joachim のいずれかを選択し、演奏すること。</td> </tr> <tr> <td>(2) Brahms: Concerto 第 1 楽章</td> </tr> </table>	(1) Beethoven: Concerto 第 1 楽章	}	カデンツァは Kreisler か, Joachim のいずれかを選択し、演奏すること。	(2) Brahms: Concerto 第 1 楽章
	(1) Beethoven: Concerto 第 1 楽章	}	カデンツァは Kreisler か, Joachim のいずれかを選択し、演奏すること。			
	(2) Brahms: Concerto 第 1 楽章					
	ヴィオラ (Va)	<p>1. Brahms: Sonata No. 1 又は No. 2 の第 1 楽章 2. 次の中から任意の 1 曲</p> <p>(1) Bartók: Concerto 第 1 楽章 (2) Hindemith: "Der Schwanendreher" 第 1 楽章 (3) Hindemith: Sonata Op. 11, No. 4 全楽章 (4) Gyula David: Concerto 第 2, 3 楽章</p>				
	チェロ (Vc)	<p>1. J. S. Bach: Solo Suites の中から任意のプレリュード 1 曲 2. 次の中から任意の 1 曲</p> <p>(1) Haydn: Concerto D-dur Op. 101 第 1 楽章 (2) Dvořák: Concerto h-moll 第 1 楽章 (3) Schumann: Concerto a-moll 第 1 楽章</p>				
コントラバス (Cb)	<p>Karl Ditters von Dittersdorf: Concerto E-dur 全楽章 (D-dur 版にても可)</p>					
ハープ (Hp)	<p>1. 次の中から任意の 1 曲</p> <p>(1) J. S. Bach: Sonata F-dur 全楽章 (2) Händel: Concerto 全楽章</p> <p>2. 次の中から任意の 1 曲</p> <p>(1) Hindemith: Sonata 全楽章 (2) Tailleferre: Sonata 全楽章</p>					

専攻	声種・楽器等	課題曲等	
器 楽		<p>◎ 管打楽器共通注意事項 (フルート・オーボエ・クラリネット・ファゴット・サクソフォーン・ホルン・ トランペット・トロンボーン・ユーフォニアム・チューバ・打楽器) ○志願者でピアノ伴奏を必要とする場合には、試験当日伴奏者を同伴すること。</p> <p>試験曲 1. 自由曲 1曲 (下記の課題曲以外の曲。) 2. 課題曲</p>	
	管	フルート (Fl)	C. Ph. E. Bach : Sonata a-moll (無伴奏)
		オーボエ (Ob)	Mozart : Concerto KV. 314 (285d)
		クラリネット (Cl)	Stravinsky : 3 Pieces for Clarinet solo
		ファゴット (Fg)	Mozart : Concerto KV. 191 (186e)
		サクソフォーン (Sx)	J. Ibert : Concertino da Camera
	打 金	ホルン (Hr)	R. Strauss : Concerto No. 1
		トランペット (Tp)	Eugène Bozza : Rustiques (Leduc 版) 及び Pierre Thibaud : New Trumpet Techniques (Leduc 版) No. 2 ~ No. 10の中から当日指定
		トロンボーン (Tb)	Händel : Concerto ただし、バス・トロンボーンを用いて受験する者は、下記の課題曲による。 Eugène Bozza : New Orleans, Trombone basse et piano (Leduc 版)
		ユーフォニアム (Eup)	Ed. Boccalari : Fantasia di Concerto (Sounds from the Riviera) Arr. by Kent-Akers (Carl Fischer 版)
楽	チューバ (Tu)	Vincent Persichetti : Serenade No. 12 for Solo Tuba	
	打楽器 (Pc)	François Dupin : Myriades (Leduc 版)	

専攻	声種・楽器等	課 題 曲 等
器 室	内	<p>◎ 室内楽共通注意事項 昭和62年度の募集は下記のとおりとする。</p> <p>I 個人で受験する場合は次の各楽器を専門とする者のみ。 志願者は、当日協演者を同伴すること。 弦楽器－ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ 管楽器－フルート・オーボエ・クラリネット・ファゴット・ホルン</p> <p>II グループで受験する場合 弦楽器－弦楽四重奏のみ 管楽器－木管五重奏のみ</p>
		<p>I 個人で受験する場合 各楽器の大学院入試課題曲の中から Bach 以外の1曲と次の課題曲の計2曲 Beethoven: Streichquartett Es-dur Op. 74 第1楽章 Poco Adagio-Allegro 第2楽章 Adagio ma non troppo (注)○ヴァイオリンで受験する者は、第1ヴァイオリンのパートを弾くこと。 ○時間の都合で一部を演奏させることがある。</p> <p>II グループで受験する場合は下記の2曲のみとする。</p> <p>1. Beethoven: Streichquartett Op. 18-1 F-dur から 第1楽章 Allegro con brio</p> <p>2. Beethoven: Streichquartett Op. 59-No. 2 e-moll から 第1楽章 Allegro 第2楽章 Molto Adagio</p>
楽 室	内	<p>I 個人で受験する場合</p> <p>1. 各楽器の大学院入試課題曲を演奏すること。(時間の都合で一部を演奏させることがある。)</p> <p>2. 室内楽曲 次の(1), (2), (3)の一つを選び計2曲を演奏すること。(時間の都合で一部を演奏させることがある。)</p> <p>(1) A・B群より各々1曲ずつ (2) A・C群より各々1曲ずつ (3) C群より2曲</p> <p>A 群 Franz Danzi: Bläserquintett B-dur Op. 56 Nr. 1 Anton Reicha: Bläserquintett Es-dur Op. 88 Nr. 2 Joseph Haydn: Divertimento B-dur ("Chorale St. Antoni" 付き。)</p> <p>Paul Taffanel: Quintette à vent en sol mineur</p> <p>B 群 Paul Hindemith: Kleine Kammermusik Op. 24 Nr. 2 Jacques Ibert: Trois Pièces Brèves Darius Milhaud: La Cheminée du Roi René Jean Françaix: Quintette</p> <p style="text-align: right;">(次頁ニ続ク)</p>

専攻	声種・楽器等	課 題 曲 等
音 楽 学	音 楽 学	1. 専攻論文 試験時間：2時間 各自の専攻テーマについて論じる。 2. 音楽学 試験時間：2時間 音楽美学、音楽理論、西洋音楽史、日本・東洋音楽史、民族音楽学の5部門から2部門を選んで受験する。 3. 口述試問
	音 楽 教 育	1. 音楽教育についての小論文 試験時間：2時間 2. 口述試問 3. 専攻実技（作品審査又は実技試験） 出願の際に選択した専攻に課せられたものと同一の試験科目について行う。ただし、ピアノにより受験する者については、次の課題曲を演奏すること。 Chopin: Etudes Op. 10, Op. 25 より任意の3曲。 ただし、Op.10の3, 6, 9, Op.25の1, 2, 7, 12を除く。 (注) ○時間の都合で一部を省略することがある。 ○暗譜で演奏すること。
	ソルフェージュ	1. ソルフェージュ試験 (1) 実技試験 a. 聴音（単旋律・複旋律・四声体和声）……ピアノによる。 b. 各種の音部記号を用いた初見視唱……高音部・低音部・ソプラノ・メゾソプラノ・アルト・テノール・バリトンの各音部記号を用いる。 c. ピアノによる初見視奏 $\left\{ \begin{array}{l} (ア) \text{ ピアノ新曲} \\ (イ) \text{ 弦楽四重奏の総譜} \end{array} \right.$ d. バス及びソプラノの旋律課題を与えて、それぞれ四声体和声を作る。 } 作曲専攻で受験する者は除く。 e. 主題を与えて、三声の対位法的作法による楽曲を作る。 (2) ピアノ実技試験……ピアノ又は指揮専攻で受験する者は除く。 課 題 曲 J. S. Bach: 平均律ピアノ曲集第1巻・第2巻より任意の1曲（プレリュードとフーガ。）を選び暗譜で奏すること。 2. 口 述 試 問 3. 専攻実技（作品審査又は実技試験。） 出願の際に選択した専攻に課せられたものと同一の試験科目について行う。 (次頁ニ続く)

専攻	声種・楽器等	課 題 曲 等	
音 楽 学	ソルフェージュ	<p>ただし、ピアノにより受験する者については、次の課題曲を演奏すること。</p> <p>Chopin: Etudes Op. 10, Op. 25 より任意の3曲。 ただし、Op. 10 の 3, 6, 9, Op. 25 の 1, 2, 7, 12 を除く。</p> <p>(注) ○時間の都合で一部を省略することがある。 ○暗譜で演奏すること。</p>	
邦 楽	邦楽共通注意事項		
	○志願者に対し、試験の際、邦楽全般又はその専門に関する簡単な口述試問を行う。		
	○受験者は、志願する部門に応じて下記の課題曲を暗譜で演奏すること。ただし、長唄志願者は、唄本を用いてもよい。		
	三 味 線 音 楽	長 唄	「時雨西行」
		長唄三味線	「三曲糸の調」
		長唄囃子	1. 「船弁慶」(二世杵屋勝三郎作曲)四拍子より任意の1楽器を選択。 2. 「英執着獅子」(笛)
	箏 曲	山田流による志願者……箏「熊野」 三絃「寿くらべ」 生田流による志願者……箏「青柳」 三絃「萩の露」	
尺 八	琴古流による志願者…… 1. 「真虚霊」(初世黒沢琴古編曲) 2. 「虚空鈴慕」(同 上) 3. 「一二三鉢返し調」(同 上) 都山流による志願者…… 1. 「岩清水」(初世中尾都山作曲) 2. 「峰の月」(同 上) 3. 「鶴の巣籠」(初世中尾都山編曲) 上記各3曲の中から当日一曲を指定する。 共通曲…… 1. 「若葉」 2. 「桜狩」 上記の中から一曲を自由に選択すること。		
能 楽	謡曲及び仕舞による志願者……「花筐」(観世流又は宝生流による。)		
能 楽 囃 子	<p>(イ) 笛……………「楽」及び「神楽」</p> <p>(ロ) 小鼓……………囃子「野宮」</p> <p>(ハ) 大鼓……………囃子「融」</p> <p>(ニ) 太鼓……………「楽」</p> <p>○出願の際は、所定の用紙(「能楽囃子専攻者提出用紙」)に必要事項を記入のうえ提出のこと。</p>		

2. 音楽に関する基礎能力検査

他大学出身者(本学出身者を除く。)で、作曲・音楽学・声楽(第2次合格者)・その他の専攻(第1次合格者)の各専攻受験者に対して、音楽に関する基礎能力検査を次のとおり行う。

専 攻	基礎能力検査科目		課 題 曲 等	
作 曲	ピ ア ノ [ピアノ専攻・音楽教育(ピアノ専攻)・ソルフェージュ (ピアノ専攻)を除く]		Haydn 又は Mozart の Sonate より任意の1曲。全楽章。 ○繰り返しは省略する。 ○時間の都合で一部を省略することがある。	
	声 楽	聴 音 [ソルフェージュ 専攻を除く]	次頁の例題の程度のもの	
		初見視唱 [ソルフェージュ 専攻を除く]	同 上	
	器 楽	楽 典 [作曲・音楽教育 (作曲専攻)・ソルフェージュ(作曲専攻)を除く]	試験時間：1時間	
	指 揮	ソルフェージュ		
音 楽 学	和 声 [作曲・音楽教育(作曲専攻) ・ソルフェージュ(作曲専攻) を除く]		ソプラノ及びバス課題を与えて簡単な転調を含む四声体の和声をつくる。 試験時間：1時間30分	
音 楽 教 育 [邦楽専攻を除く]				
ソルフェージュ [邦楽専攻を除く]				
邦 楽	副科実技 [専攻実技試験 に引き続き行う]	専 攻 名	副 科 実 技	
		長 唄	長唄三味線・長唄囃子(四拍子より1楽器)	
		長唄三味線	長 唄・同 上(同 上)	
		長唄囃子	専攻以外の四拍子より1楽器・長唄又は三味線	
		能 楽	能楽囃子(四拍子より1楽器)	
	能楽囃子	専攻以外の四拍子より1楽器・謡曲		
[音楽教育 (邦楽専攻) ・ソルフェージュ(邦楽専攻) を含む]	西洋音楽理論		ソプラノ及びバスの課題を与えて属7迄の四声体の和声をつくる。	
			曲目は自由	

聴音例題

1 単旋律

2 複旋律

3 和声

初見視唱例題

視唱

IX 最終合格者発表

作曲……62年2月28日(土)午前11時以降(音楽学部内掲示)

上記以外のすべての専攻……昭和61年10月8日(水)午後4時以降(音楽学部内掲示)

入学の条件

1. 指定期日までに各種の申告届出をなし、納付金を納入すること。
2. 昭和62年3月卒業見込の者で最終合格者は、卒業していること。

※前年度の音楽学・音楽史・語学の各入試問題を閲覧したい者は、音楽学部教務係で閲覧することができる。

X 検定料・入学料・授業料

1. 検定料 18,000円
2. 入学料 150,000円
3. 授業料 年額 300,000円(前,後期2回に分納)

(この募集要項発行後入学手続時までの間に、入学料・授業料が変更された場合には、変更後の額による。)

XI その他の経費

音楽教育振興会費 10,000円

XII 研究室及び指導教官

研究室	指導教官		研究室	指導教官	
作曲第1	教授	○野田暉行	"第4	助教授	木村宏子
	助教授	尾高惇忠		教授(兼)	伊藤亘行
	教授(兼)	永富正之	声乐第5 (オペラ)	教授	○伊藤亘行
"第2	教授	○南弘明		"	長沼広光
	助教授	佐藤真		助教授	高橋大海
"第3	教授	○松村禎三		"	大町陽一郎
	助教授	浦田健次郎		"	平野忠彦
声乐第1	教授	○高木浩子		教授(兼)	原田茂生
	助教授	三林輝夫	ピアノ第1	教授	○中山靖子
助教授(兼)	高橋大海	助教授		米谷治郎	
"第2	教授	○須賀靖和*	"第2	教授	○伊達純*
	助教授	瀬山真寿子		"	小林仁
	助教授(兼)	平野忠彦	"第3	教授	○田村宏
"第3	教授	○戸田敏子		助教授	堀江孝子
	助教授	毛利順子	"	"	辛島輝治
"第4	教授	○原田茂生	"第4	教授	○坪田昭三

研究室	指導教官		研究室	指導教官	
ピアノ第4	助教授	田辺 緑	音楽学第1 (西洋音楽史)	教授(兼)	角倉 一朗
" 第5	教授	○安川 加寿子	音楽学第2 (西洋音楽史)	教授	○服部 幸三
	"	高良 芳枝		教授	角倉 一朗
オルガン	教授	○秋元 道雄		助教授	土田 英三郎
弦楽第1 (ヴァイオリン)	教授	○田中 千香士	" 第3 (日本・東洋音楽史)	助教授	○上参郷 祐康
	助教授	山岡 耕筈		助教授(兼)	柘植 元一
	助教授(兼)	原田 紘一郎	音楽教育	教授	○山本文 茂
" 第2 (ヴァイオリン)	教授	○浦川 宜也	ソルフェージュ	助教授(兼)	柘植 元一
	助教授	澤 和彦		教授	○広田 幸夫
	教授(兼)	日高 毅		"	永富 正之
	講師(兼)	景山 誠治		助教授	細野 孝興
" 第3(ヴィオラ)	教授	○浅妻 文樹	邦楽第1 (長唄三味線)	教授	○菊岡 忍
" 第4 (チェロ コントラバス ハープ)	教授	○堀江 泰	" 第2 (長唄 長唄囃子)	助教授	味見 享
	"	三木 敬之		助教授	○赤木 直明
	助教授	江口 朝彦			
管楽第1 (木管楽器)	助教授	○村井 祐児	" 第3 (箏 尺八)	教授	○砂川 康江
	"	青山 昌国		助教授	増淵 任一朗
" 第2 (金管楽器)	教授	○大石 清	" 第4 (能楽 能楽囃子)	教授	○佐野 萌
	助教授	杉木 峯夫		助教授	藤波 重満
打楽器	助教授	○有賀 誠門	一般教育等	教授	沢木 欣一*
室内合奏	教授	○日高 毅		"	佐藤 覚
	助教授	原田 紘一郎		"	○斎藤 一郎
指 揮	助教授	○遠藤 雅古		"	若桑 みどり
	"	佐藤 功太郎		助教授	中嶋 敬彦
音楽学第1 (体系的音楽学)	教授	○舩山 隆		"	成田 英明
	助教授	柘植 元一		"	檜山 哲彦

(注) 1. ○印は研究室主任教官である。

2. 入学後に所属を希望する研究室名と指導を希望する教官名を上の上の表の中から選んで入学願書の研究室所属希望届欄に記入すること。

3. 専攻する楽器を担当する教官がない場合には、その研究室の主任指導教官(○印)の氏名を記入すること。

4. 入学後大学側の事情により所属研究室・指導教官が変更された場合には、その変更にしたがうこと。

5. 声楽専攻志願者は、研究室所属希望届の「希望研究室の名称」欄のみ記入し、「指導を希望する教官名」欄には記入しないこと。最終合格者発表後に希望する指導教官名を提出させる。

なお、オペラ志願者は、「希望研究室の名称」欄に声楽第5研究室と記入する。
(声楽実習の授業を担当する教官の所属研究室と混同しないこと。)

6. 教官名の後に※印のある教官は、昭和62年3月31日に停年退官の予定である。

XIII 選抜期日

①第1期選抜試験（全専攻志願者）

昭和61年9月26日（金）～同年10月6日（月）

②第2期選抜試験（作曲志願者のみ）

昭和62年2月24日（火）

第1期選抜試験においては、全専攻志願者が受験しなければならない。

第2期選抜試験においては、作曲志願者のみ受験すること。なお、各専攻の選抜期日は「XIV選抜試験実施日程表」（折込）に記載されている。

○記載例

専攻実技…試験科目

9：30～…試験開始時刻（集合時刻については、別途掲示）

（第6ホール）…試験場

(修士課程) 選抜試験実施日程表

室内楽	指揮	音楽学	邦楽		音楽教育	ソルフェージュ	受験生 集合 場所
			箏曲・尺八	三味線・能楽			
以降に学内掲示発表する。(必ず志願者自身が見て確認すること。)							
						左欄各専攻実技試験 (声乐)	5 1 1 0 9 室 (大 講 義 室)
	専攻実技・面接他 9：30～ (第6ホール) 4-202)	専攻論文 10時～12時 音楽学13時～15時 (5-409)	箏曲専攻実技 10:00～(1-3-28) 尺八専攻実技 11:00～(1-3-28)	三味線専攻実技 10:00～(1-3-28) 能楽専攻実技 14:00～(第4ホール)		左欄各専攻実技試験 (金管, 指揮, 音楽学, 邦楽) 声乐第1次合格者発表	
						左欄各専攻実技試験 (作曲, 声乐, ピアノ, オルガン) 弦楽, 木管, 打楽器	
専攻実技 10：00～ (第2ホール)							
16時以降		日程等掲示 (合格発表なし) 16時以降	第1次合格者発表 日程等掲示 16時以降			第1次(声乐第2次)合格者発表 (除音楽学), 日程掲示16時以降	
5 - 4 0 1 , 5 - 4 0 9)							
(5 - 1 0 9 , 1 - 1 - 2 3 , 1 - 2 - 1 0)							
		口述試問 10：00～ (5-315)				小論文(5-402) 口述試問(5-404) 9：30～	ソルフェージュ試験 口述試問 9：30～ (5-211)
専攻者を除く) 16時以降							

(『東京芸術大学大学院音楽研究科(修士課程)学生募集要項』昭和61年7月発行)

(注) この日程表は、出願者の状況によって変更することがあるので、
本人が表中の日程掲示の日時に来学し、確認すること。

XIV 昭和62年度 大学院音楽研究科

専攻別 日程	作 曲	声 楽 (独 唱 オペラ)	器 楽					
			ピ ア ノ	オルガン	弦 楽	木 管	金 管	打 楽 器
61年9月 25日(木)	入学試験実施についての日程(集合時刻, 試験時刻等)および注意事項を16時 ※作曲(主専攻) 志願者の日程は10月2日(木)及び62年2月23日(月)16:00以降に発表する。							
26日(金)		専攻実技1回 9:30~ (第6ホール)	専攻実技 9:30~ (第1ホール)					
27日(土)		専攻実技1回 9:30~ (第6ホール)	専攻実技 9:30~ (第1ホール)					
28日(日)								
29日(月)		第 1 次 合格者発表 日程等掲示 16時以降	専攻実技 9:30~ (第1ホール)	試奏日 (レジスター・タイム)			専攻実技 10:00~ (第2ホール)	
30日(火)	音楽教育・ソ ルフェージュ の作品審査・ 口述試問 14:00~	専攻実技2回 9:30~ (第6ホール)	専攻実技 9:30~ (第1ホール)	専攻実技 10:00~ (2-2-8)	専攻実技 9:30~ (第2ホール)	専攻実技 10:00~ (F1他4-404 C1他4-406)		専攻実技 10:00~ (4-009)
10月 1日(水)		専攻実技2回 9:30~ (第6ホール)						
2日(木)	日程等掲示 (作曲を主専攻 とする志願者)	第 2 次 合格者発表 日程等掲示 16時以降	第 1 次 合 格 者 発 表 日 程 等 掲 示					
3日(金)	音 楽 史 10:00 ~ 12:00 , 語 学 13:00 ~ , (5 - 1 0 9 ,							
4日(土)	音 楽 に 関 す る 基 礎 能 力 検 査 (他 大 学 出 身 者 の み) 9 : 3 0 ~							
5日(日)								
6日(月)		面 接 演技適性検査 10:00~ (第5ホール)						
7日(火)								
8日(水)	最 終 合 格 者 発 表 (作 曲							
62年2月 23日(月)	日程等掲示 16時以降							
24日(火)	作品審査 口述試問							
28日(土)	最終合格者発表 11時以降							